

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第122号

## ななえ古写真物語

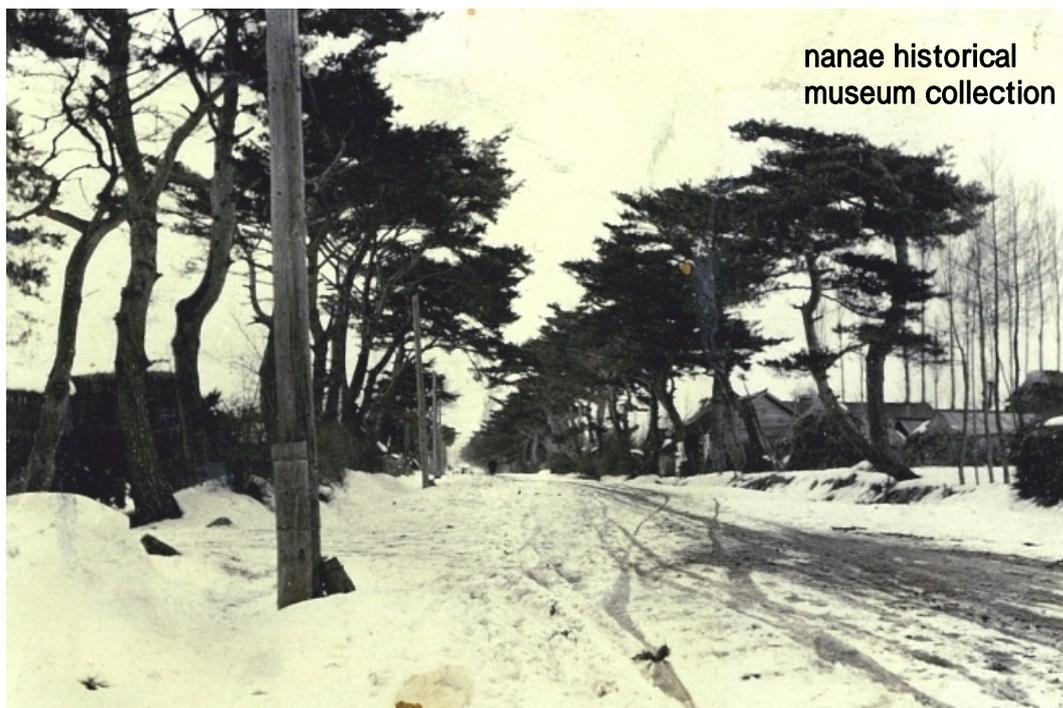
VOL. 122

### 鷹揚な時代

雪の赤松並木

昭和20年ごろか

大川地区



nanae historical  
museum collection

例年類を見ない今年の大雪は、ななえの主要道路である国道5号を、ソロバンの玉が並んだような、ガタガタ道に変え、路肩に積まれた雪も山となり、道幅をさらに狭くしている。だから、運転に苦労している方が、いつも以上に多いと思う。タイヤのホイールカバーやら、ワイパーやらが落ちているのをみる機会までもが多いほどだ。

ところで、以前にも記したことがあったと思うが、国道5号が完全舗装化となったのは、昭和36年4月。それまでは、雪が降ると、上の写真のように、土と雪が相混ざった、ぬかるみ道になったと想像される。この写真は、おそらく大川地区から七飯本町方面に向かって撮影されたと思われるもので、電信柱は木製、道路も未舗装である。雪は積もっているが、除雪している様子もない。残念ながら、自動車は映っていないが、残された車輪跡を見る限り、左右に蛇行しており、車線に関係なく走っている様子うかがえるし、遠くの方には車道の真ん中を平然と歩く人の姿まであるのだから、なんて鷹揚な時代だったのだろう。と驚いてしまう。今に比べ、自動車の数も少なく、交通量が少なかったからだろう。

幸いに、北海道唯一といって良いほど、長い距離にわたって、赤松が道の両側に立ち並んでいるので七飯町だとわかるが、そうでなかったなら、何処なのかわからないだろう。赤松も、よく見ると、コモが巻かれていないことから、現在、冬の風物詩となったコモ巻きは、昔行われていなかったことがわかる。しかし、この写真が撮影された年代が、いまひとつ定かではない。寄贈された一連の古写真の中に、同時期の夏によって撮影された国道5号には、フォードのバスが走っている姿があったので、おそらくは、戦中・戦後のあたりだろうと考えているが、定かではない。

ちなみに、七飯にはじめて乗合バスが運行したのは、昭和6年で七飯～峠下間、七飯～大中山間を往来していた。その後、昭和13年には、道南バスが七飯本町に車庫を建設し、七飯～函館間を1日5往復走らせた。さらには、昭和19年に、函館バスが他の会社を合併して、七飯での運行を始めたというが、往時の写真が整理されていないので、定かでない。

赤松のコモ巻きの始まりと、路線バスの歴史や車種について、もう少し見聞を広める必要があるなど、反省した写真の紹介でした。

## 7日

夜の博物館第2回は「縄文人の世界観」。まずは、縄文時代の画期的な変容を答えてもらい、定住してムラが出来た利点を聞くと、様々な意見が出されました。ここで大切なのは、自然との関係は？という視点で考えること。自然と付き合い、観察をし、智慧の伝承が文化を成長させ、伝達のために森羅万象に名前を付けるという流れを学びました。また、アニミズムがより深化した縄文時代を身近に感じるのに使用したのは、「アニメ」でした。該当する場面解説に、いつもとは少し趣が違う夜博、楽しんで頂けましたか？



## 26・30日

上磯小学校と中の沢小学校の三年生が見学に訪れました。昔の道具しらは、民家前に皆で座り、今も使われているけど、形や素材が違う道具を見て、触れて、当ててもらいました。実際に触れて、お話を聞くと、理解は、より深まります。牛乳が入った重さと同じにした集乳缶を持ち上げる体験をしてもらったところ、「フランダースの犬」を思い出した引率の先生、モノが呼び起こす記憶を目の当たりにした時間でもありました。



## 27日

晴れ間が広がる月末の土曜日、歴史館の外にジュニア探検クラブの子供たちの声が響きます。今回のプログラムは「雪像作り」。各班で作りたいものを決めて、こんもりと積まれた雪の山から移植ゴテやスコップを使い、足したり、引いたりしながら、制作したのですが、時々雪と戯れる子供に発破をかける場面も。最後まで出来た班もそうではなかった班もありましたが、文化の森の坂をスコップを使い、滑る子供たちの笑顔は、とっても楽しそう。自然の中で、体を使って遊んで育つ、という本来の姿を見た一日でした。



## 3月の予定

1	木	企画展「あそび」開催中
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	夜の博物館
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	冬の探鳥会
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	ジュニア探検クラブ
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	春分の日
22	木	
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	
29	水	
30	木	
31	金	

3月の休館日はありません

### ゆきをたのしむ

「雪は天から送られた手紙」と語った中谷宇吉郎、詩的で軽妙な文章は、静かに余韻を運んでくれます。



### 編集後記 ~tawagoto~

この館で働いてから、はじめて窓枠よりも高く雪が積もる景色を眺める冬となった。何度か職員によって除雪をしたにもかかわらず、この高さだ。ガラス窓が雪の重みで割れないか、ヒヤヒヤな毎日である。室内は、かまぐらの内部のような趣きで暗い。そんな状況でも、来館して下さるお客様がいることに感謝が絶えない。せめて、暖かな部屋で学びを楽しんでもらえるよう、暖房を上げ気味にお出迎えさせて頂いている。(やまだひさし)

Richard ~ピチャリ~

第122号

平成30年2月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp